

第3章

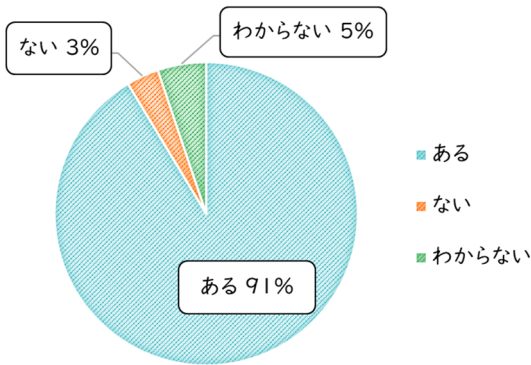
発達障がいのある自分について どう考えているか

1 趣味

趣味のある人が91%となり、一般的な調査との比較はできていないが、高い比率で楽しみを持って生きていることがうかがえる。趣味の内容は多彩で一般的なものが多いが、「都内長距離散歩、イギリス英語の訛りの発音の勉強」など個性的なものもある。

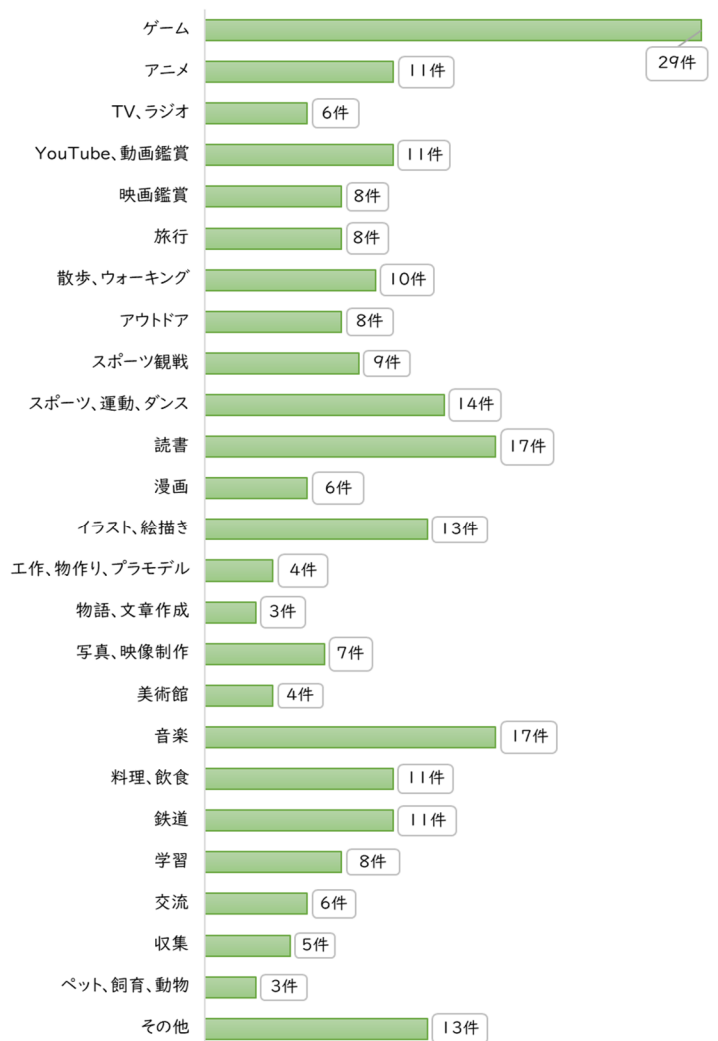
「その他」の記述は「寝る」「あいポートのプログラム」「考え事」「サウナ」「プログラミング」「育児」等

図3-2 趣味や楽しみがあるか



※問1-7 あなたには趣味や楽しみがありますか/単一回答
※n=116

図3-1 趣味(自由記述)

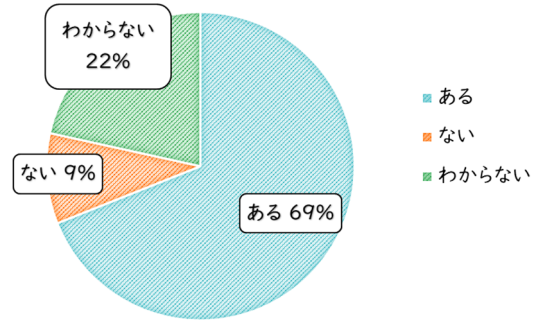


※問1-8 問1-7で「ある」と答えた方におたずねします。
どのような趣味や楽しみか具体的に教えてください
※自由記述 103 件の回答(重複含み 242 件)より
※自由記述のグラフ作成方法については序章「アンケート調査の概要」を参照

2 強み・得意なこと

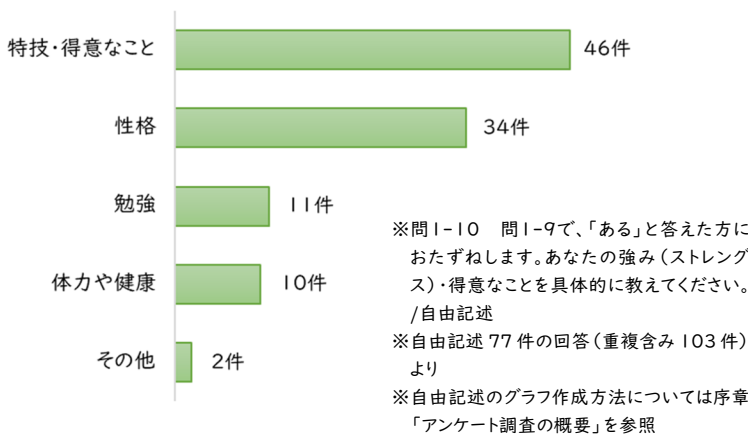
7割に自分の強みや特技があり、得意なことを活かすという認識が定着している。能力、技術だけではなく、あきらめない、孤独に強いなど、性格に分類されることをあげる人も4割強おり、トータルに自分の特性を把握していることがわかる。

図3-3 強みや得意なことがあるか



※問1-9 あなたには強み(ストレンクス)・得意なことがありますか/単一回答
※n=116

図3-4 強みや得意なこと(自由記述)



自由記述より / 問1-10 問1-9で、「ある」と答えた方におたずねします。あなたの強み(ストレンクス)・得意なことを具体的に教えてください。

特技・得意なこと

“ 分からない事はとことん調べる、取り組む (30代/男性) ”

“ 物事をコツコツと続けていくことが得意 (30代/女性) ”

“ ルールや決まり事を守ることが得意 (50代/女性) ”

“ 意味のなさそうな事を永遠と繰り返せる (男性/20代) ”

性格

“ 孤独に強い(複数名回答あり) ”

“ 人と壁を作らない(20代/男性) ”

“ 昔からねばり強く、多少苦手なことにも取り組みます(30代/女性) ”

“ 気が長い、あきらめない、整理整頓がとくい。あいさつを大切にしています(30代/女性) ”

学習

“ 学習が大好きである(30代/男性) ”

“ 電車、駅、日本、世界、地図、歴史を良く知っている(男性/40代) ”

“ 数字に強い、計算が得意(20代/男性) ”

体力や健康

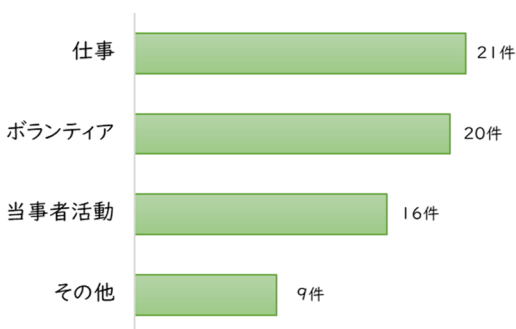
“ めったに仕事を休まない(20代/男性) ”

“ 骨が強い(10代/女性) ”

3 社会貢献したいか

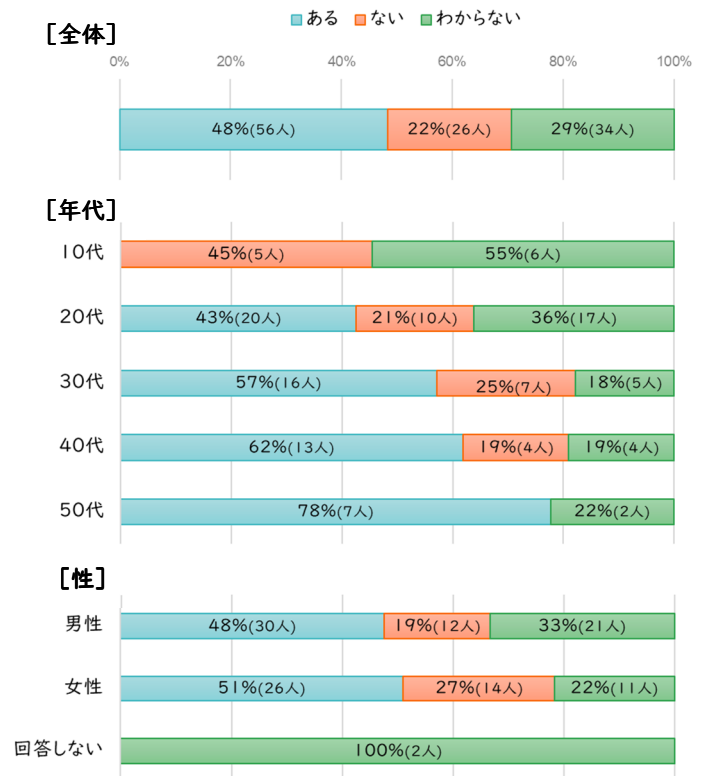
生活困難な状況にある人が多い中で、半数が社会貢献の希望を持っている。年齢が上がるほど希望者の比率は高い。就労以外の社会貢献に目が向く年代というのはあるかもしれない。ボランティアをしたい、社会に役立つことをしたいという気持ちは、年代に関わらず日常的に語られている。

図3-6 あなたがしたい社会貢献(自由記述)



※問1-12 問1-11で、「ある」と答えた方におたずねします。あなたがしたい社会貢献を具体的に教えてください。/自由記述
 ※自由記述 53 件の回答(重複含み 66 件)より
 ※自由記述のグラフ作成方法については序章「アンケート調査の概要」を参照

図3-5 社会貢献したいことがあるか



※問1-11 あなたには社会貢献したいことがありますか/単一回答
 ※n=116

自由記述より /

問1-12 問1-11で、「ある」と答えた方におたずねします。あなたがしたい社会貢献を具体的に教えてください。

仕事

“ 人がやりたがらない仕事をして、役に立つ事です(20代/男性) ”

“ まずは仕事をして社会に参加し貢献したいが、具体的に自分に何ができるかまだわからない(20代/女性) ”

“ 仕事ができるようになって先輩の助けになれるようになりたい(30代/女性) ”

“ 好奇心があるので若者たちと共に新しいことに挑戦する探究学習の仕事をしたい(50代/男性) ”

ボランティア

“ 「ありがとう」と言われて、社会で役に立つと思えること。そういうことで、自立、自分の生活につながればいいと思います(40代/女性) ”

“ 福祉制度に助けられて生活を守っていただいているので、何かしらの形で福祉に恩返しをしたいです(40代/女性) ”

“ ごみひろいのボランティアがしたいです!(30代/男性) ”

当事者活動

“ 居場所作り(30代/男性) ”

“ 同じような悩みを持っている人の力になることが出来たらうれしいです(30代/女性) ”

“ 自身の経験を話したり、いかしてもらえる貢献活動があればうれしいです(30代/男性) ”

“ イベントやお祭りなどを企画したい。あいポートの良さを発信したい(30代/男性) ”

その他

“ 人を笑顔にしたい(20代/男性) ”

“ 何らかの形で社会に貢献したいけど具体的にはまだ分からない(30代/男性) ”

報告書検討メンバー コメント

趣味や楽しみがある方がほとんどで、その内容を問うと圧倒的にゲームとの回答だ。他に読書、音楽、イラスト・絵を描くなど家の中で行うものが多く、外で行うスポーツ、旅行、散歩などの活動より好まれている。

また何か社会貢献したいことがあるかの問いについては半数程度が肯定的。不思議なことに年齢が上がるほど前向きになるが、それに男女差はないようだ。自分が社会と繋がり、何らかの形で役立ちたいという気持ちを持つのは素敵な事だ。

板橋区発達障害児者親の会 (IJの会) 副代表 白石 敏枝

あいポートの紹介

3つの相談室



交流室



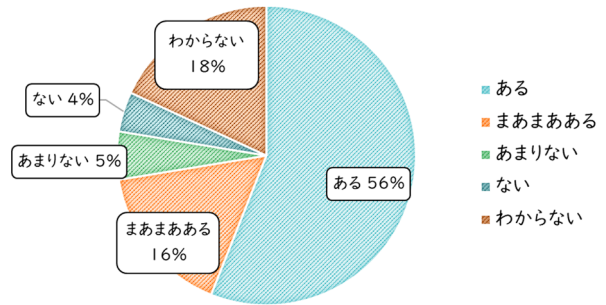
個別支援室



4 こども時代の困りごと

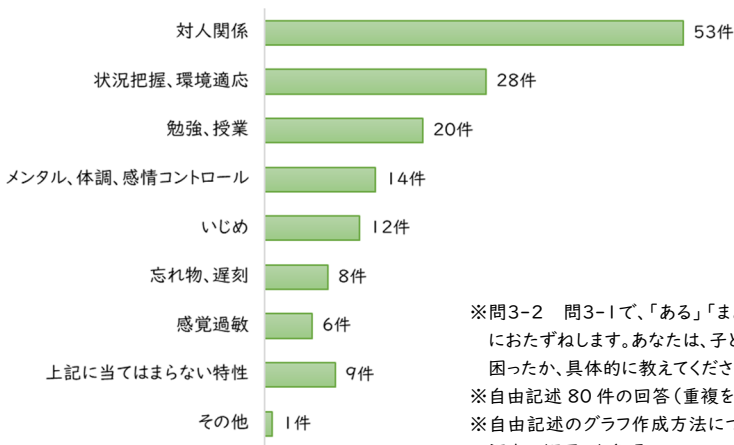
大人になってからの振り返りだからこそ、自分の特性を客観的に分析し、長期間反芻して考え抜いた人も多いことがわかる。いじめに関する直接的な記述は少ないが、嫌な体験はとても多い。言葉で語るのが難しいこどもに代わって、大人になった本人が発信した貴重な資料である。

図3-7 こども時代に困ったことがあるか



※問3-1 あなたは発達障がいがあることで、子ども時代（18歳まで）に困ったことがありますか。/単一回答
※n=116

図3-8 こども時代の困りごと(自由記述)



※問3-2 問3-1で、「ある」「まあまあある」と答えた方におたずねします。あなたは、子ども時代どのようなことに困ったか、具体的に教えてください。/自由記述
※自由記述 80 件の回答(重複を含み合計 151 件)より
※自由記述のグラフ作成方法については序章「アンケート調査の概要」を参照

自由記述より / 問3-2 問3-1で、「ある」「まあまあある」と答えた方におたずねします。あなたは、子ども時代どのようなことに困ったか、具体的に教えてください。

対人関係

相手の感情が理解できない、自分の感情を制御できない、相手の話の内容が理解できない、相手と話しているとなぜか相手が怒り出してしまう(30代/男性)

思ったことや態度が表情に出てしまい、周囲とのトラブルや軋轢の元になる(20代)

人の中に入れずずっと不登校でさみしかった。居場所がなく、何をしても失敗が多かった(30代/女性)

状況把握、環境適応

小学校の生活について行けなかった。何故、それを行わなければならないのか、全く理解できなかった(50代/男性)

みんなと同じように出来ない(20代/女性)

勉強、授業

“ 授業中じっとできなくてクラスメイトに
因縁つけられた(20代/女性) ”

“ 協調運動が苦手な体育の授業がこなせないところ、
根性論で練習・習得を強要され無駄な時間と労力を
消費していた(30代/女性) ”

“ 勉強についていけなかったが、放置されていた(30代/男性) ”

メンタル、体調、感情コントロール

“ 勉強などはできるのに「何かうまいこといかない」感じ
がずっとあった。トラブルを起こす訳ではないが、何か情
緒的に浮くような感じがしていた(40代/女性) ”

“ 自分に厳しい(完璧主義)、完璧にできないと
自傷行為をしてしまう(20代/女性) ”

いじめ

“ 冗談が通じないことや、反応がオーバーであること
から、いじめやイジリの対象にされたこと(20代) ”

“ 友達ができづらかった、いじめや嫌がらせにあっ
た、自分で正しいと思うことを曲げられなかった
(40代/女性) ”

“ 何かおかしいかわからないけど、おかしいらしく、変だといじめられた(20代/女性) ”

忘れ物、遅刻

“ 宿題も出来ず、学校のプリントも持ち帰れず机の中
にグシャグシャに成ってたまっていた(50代/男性) ”

“ 先延ばし癖が酷く期限を守れない。時間の見
通しが苦手で遅刻が多く何度も指導される
(20代/女性) ”

感覚過敏

“ 感覚過敏の特性があり、他の生徒が騒がしくて日々を過ごすだけで
疲れ切っていた。家が狭く妹と同じ部屋で寝起きさせられ、感覚過敏
のためにいびきのうるささで常に睡眠不足だった(30代/女性) ”

“ 感覚過敏から、偏食が強く、現在
でも克服練習中(30代/男性) ”

上記に当てはまらない特性

“ 色が多いと頭の中がゴチャゴチャになる。複数の中から数を数えたりする事が
苦手でした。平仮名の練習で線通りに書けなかった(10代/女性) ”

報告書検討メンバー コメント

こども時代の困りごとは、対人関係づくりや感覚特性などの自身が感じる困難さと、環境や周囲の対応による困難さがあり、約20年で特別支援教育の進歩はありますが、大集団の生活で多様な学習を要請される学校環境では困り感を感じやすかったものと思われます。今後、困りごとに加え、当事者の視点から「あったらよかった」や「あってよかった環境、関わり、支援」も教えていただき、発達障がいの診断に関わらず、互いが思いやり、理解し（ようとし）、助け合える地域の醸成に取り組んでいけることが望まれます。教育・保育の場は当事者と区民全体の今と将来に向けて大きな力になるため、支援者が支援をしやすい体制づくりも大切だと考えます。このたびは貴重なご回答をありがとうございました。

板橋区子ども発達支援センター 所長 長瀬 美香

調査結果を拝見させていただきました。

利用者様方の困り感について、具体的な状況を知ることができたことは、今後の利用計画や支援計画を立案する際に、とても役立つと思います。特にコミュニケーションに関することに起因する困り感を訴えていらっしゃる方が多いことから、学校教育でも、コミュニケーション力を高めていくことを中心課題とした授業に努めていく必要があると改めて感じました。

本校では、3年前に卒業生アンケートを実施し、その中で「板橋特別支援学校で、もっと勉強しておけばよかったことは何ですか」「働く上で、最も必要なことは何ですか」という回答で最も多かったのは「コミュニケーション力」でした。あいポート様の調査結果と同様でした。

卒業後に必要となるコミュニケーション力を身に付け、高めていくことは、その障害特性から容易ではないと思います。学校教育でも、高等部段階から取り組み始めても、その改善は、かなり厳しいものがあります。特別支援学校小学部や小学校特別支援学級在籍時から、中長期的な指導目標のもと、取り組んでいかなければならないと思います。さらに、指導にあたる教員の力量も様々であるので、外部の専門家（心理士、福祉士、等）からの助言を受けながら、教員は、指導を進めていくことが重要だと思えます。

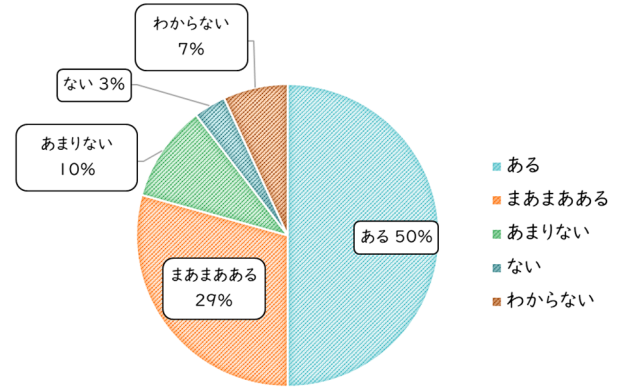
東京都立板橋特別支援学校 校長 尼子 創一

5 今、困っていること

8割の人が困りごとを抱えており、生活面での苦勞と将来不安が大きい。診断時期別クロス集計では、こども時代に診断が出た人は、大人になってから診断が出た人より、困り感が少ない結果である。こども時代に診断が出ている人は、診断につながる親がいて、その段階で何らかの支援を受けたり、仲間をもっていることも多い。大人になる過程で支援を中断しても、困難に遭遇した時に再度つながる可能性が高い。早い段階で診断を受ける意味はある。

図3-9

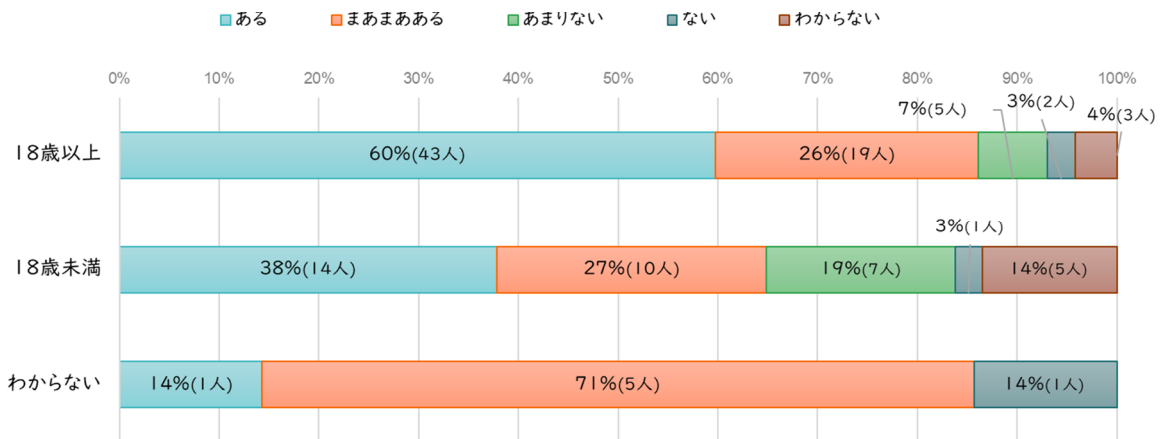
今、困っていることがあるか



※問3-3 あなたは今、困っていることがありますか/単一回答
※n=116

図3-10

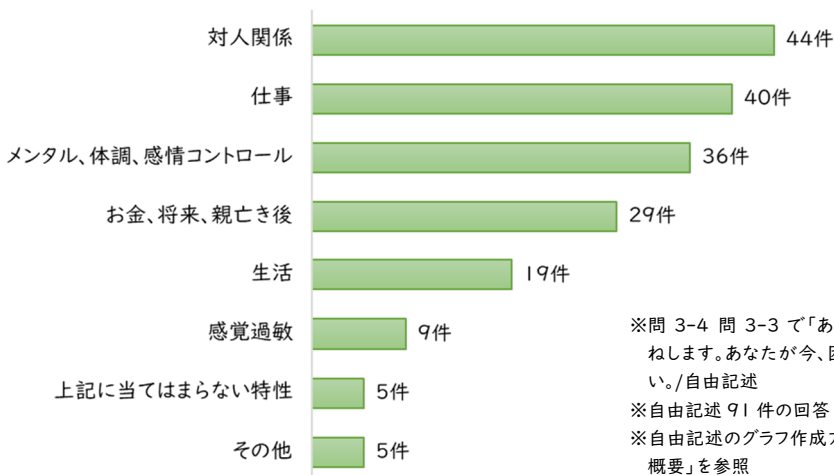
今、困っていることがあるか(診断時期別)



※n=116

図3-11

今、困っていること(自由記述)



※問3-4 問3-3で「ある」「まあまあある」と答えた方におたずねします。あなたが今、困っていることを具体的に教えてください。/自由記述

※自由記述91件の回答(重複を含み合計187件)より

※自由記述のグラフ作成方法については序章「アンケート調査の概要」を参照

自由記述より / 問3-4 問3-3で「ある」「まあまあある」と答えた方におたずねします。あなたが今、困っていることを具体的に教えてください。

対人関係

相手のことがよくわからない、自分のことがよくわからない、対人関係がめんどくさい (20代/男性)

自分の使い方(正しい使い方ではない)で言葉を使ってコミュニケーションに失敗する (20代/男性)

本音と正論で話をしてしまいがち (50代/女性)

仕事

目的のことをやり遂げるまでに時間がかかってしまうこと(衝動性が強い傾向があり、新しく目に入ったことに飛びつきやすく、本来の目的が進まず、結果として時間がかかってしまう) (40代/男性)

ストレスに対して鈍感なので、蓄積に気づきにくく爆発すると衝動的な行動にててしまいます。月経前後は体調の波も不安定で、それらの理由から就労が困難な状況です (30代/女性)

メンタル、体調、感情コントロール

気温の変化やストレスになることがあると、すぐに体調不良になりやすい (30代/女性)

低気圧に弱い。新しいことが好きなのに刺激で疲れる (50代/女性)

お金、将来、親亡き後

金銭不安(実際には足りていても使う怖さがある) (40代/女性)

自分の能力でできる仕事についているが、その仕事の賃金では自立が難しい (40代/女性)

働いて生活保護を抜けたとき、自分で医療費を払えない気がする(基礎疾患が多い) (30代/女性)

貧困のため年齢相応の社会経験・趣味・交友関係が築けない (30代/女性)

生活

アレルギー持ちなのに、家事や掃除が間に合わず家が汚いこと。片付けの段取りが悪く、物が散乱していること (30代/女性)

自分のルーティーンが守れないと苦しく、ルーティーンを守るために身体がつかれているのに睡眠や食事を削ることもある (40代/女性)

感覚過敏

“ 聴覚過敏なのに聞き取り苦手 (50代/女性) ”

“ 満員電車・顔の映る写真を撮られること (10代/男性) ”

上記に当てはまらない特性

“ やれることとやりたいこと両方無いこと (10代/女性) ”

報告書検討メンバー コメント

今回、アンケート調査の対象が、あいポート利用者であり、80%に、困っていることがあると回答しており、当然であるが、高い率を示している。「対人関係」・「自己の行動統制」など、発達障害の特性に由来する困り感と、特性から二次的に派生して起こりやすい、「仕事」・「心身の健康」・「金銭や将来の生活不安」を回答している。

外部からの強いストレスに対し、人間の精神心理的反応行動として起こる順応行動 (Coping Behavior) の過程として、障害受容のモデル、① ショック ② 障害否認 ③ 悲しみ・怒り・不安 ④ 適応 ⑤ 再起 (Drotar 1975 先天性疾患をもつ子どもの親の受容過程) がある。

「発達障害」について自己の障害受容は、保護者の障害受容と似て、表面的には適応していても悲哀などが再燃と沈静を繰り返しながら受容、克服する螺旋状の適応過程 (螺旋形モデル) を辿る (中田洋二郎氏)。障害の受容には時間が掛かるものであり、また発達特性から派生する困り感は、就労も含めた福祉の支援だけでなく、保健・医療との連携など、地域で切れ目のない多職種の顔の見える連携支援が必要である。

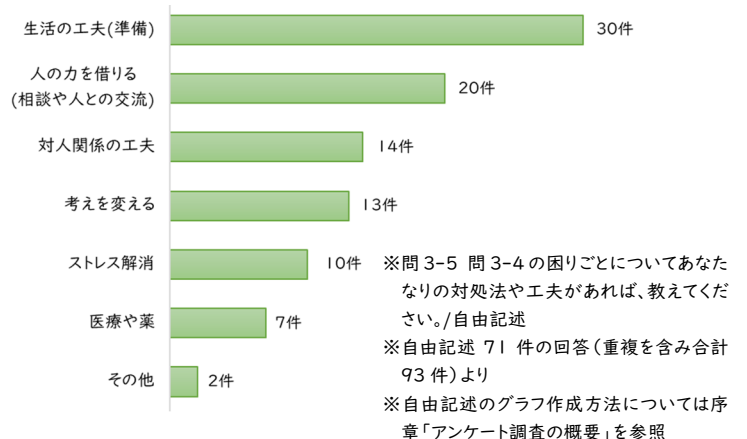
全国療育相談センター センター長 米山 明

6 今の困りごとについて、対処法と工夫

自分の特性を把握して、自分なりの対処法を工夫している人が多い。体験に基づく対処法は当事者ならではの役に立つものであり、ピア活動が大事であることがわかる。発達障がいの方は対人関係が苦手とされているが、生きる上で人との交流が大事であると認識し、工夫して人とのつながりをつくっている。

図 3-12

困りごとの対処法や工夫(自由記述)



自由記述より / 問3-5 問3-4の困りごとについてあなたなりの対処法や工夫があれば、教えてください。

生活の工夫や事前の準備

“ 大事なものは玄関に置く(30代/女性) ”

“ 苦手そうな仕事はできる限り避けるようにする(40代/女性) ”

人の力を借りる

“ 最近は人に話を聞いてもらうと楽になるのが分かったので、あいポートさんも含めて相談を積極的にするようにしています(30代/女性) ”

“ 相談しまくること(30代/女性) ”

対人関係の工夫

“ 色々な人と交流してコミュニケーションの練習をする(20代/女性) ”

“ 職場では深いつきあいをしない。なるべく短時間しか同じ職場にいないようにする(40代/女性) ”

考えを変える

“ 自分のできる理解には限度があることを自覚する(30代/女性) ”

“ 別のことを考えるようにする(20代/男性) ”

ストレス解消

“ セルフケア(体調管理、マッサージ)、休息、間食(お芋、コーヒー)(30代/男性) ”

“ ストレスがあるときは、家に居るとネガティブな感情に苛まれるので外に出るようにして気分転換を心掛けてます(30代/女性) ”

医療や薬

“ お薬や入院など(安定させるための、お薬と保護的な入院)(30代/男性) ”

“ 通院を続ける(40代/女性) ”

その他

“ 根本的な解決方法は金銭面と認識しているが、平均的で安定した収入を得たり、障害年金を受給することもなかなか難しくそうで苦戦中(30代/女性) ”

報告書検討メンバー コメント

回答にご協力下さった方の約8割が何らかの困りごとを抱え、対人面や仕事、将来や金銭面など、ライフステージに応じて尽きない悩みをお持ちです。また、悩みの数だけ対処法や工夫を持ち、日々取り組まれていることも見えてきます。アプリなどのツールに加え、周りの人の力を借りて、相談や話を聞いてもらえるとホッとすると感じられるのは、あいポートの存在の力も感じられます。今回、この報告書を通し、特性への理解を深める一助になることと、「あなたなりの対処法や工夫」が、誰かの、私の、対処法や工夫に広がることを願っています。

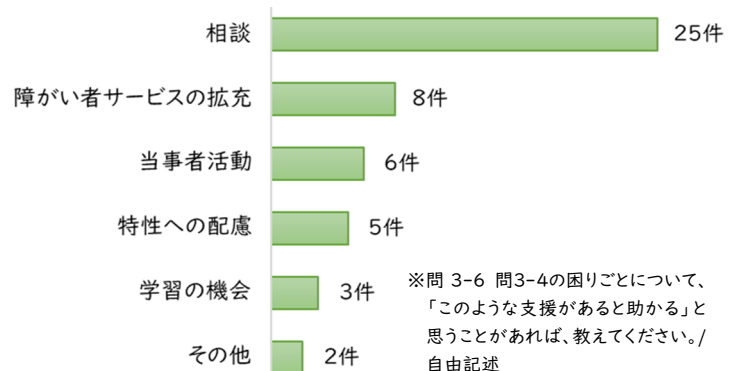
地域活動支援センタースペースピア センター長 秋吉 麻帆

7 今の困りごとについて、あると助かる支援

発達障がいの人にとって、相談という支援法がどれだけ役に立っているか迷いはあったが、相談に分類される回答が一番多かった。あいポートの面接は、職員とのつながりを作る時間と位置付けて、雑談やゲーム、散歩など、ともに時間を過ごすことを大事にしている。自分の問題を一緒に考えてくれる存在を必要としている。

図 3-13

あると助かる支援(自由記述)



※問 3-6 問3-4の困りごとについて、「このような支援があると助かる」と思うことがあれば、教えてください。/ 自由記述
 ※自由記述 71 件の回答(重複を含み合計 93 件)より
 ※自由記述のグラフ作成方法については序章「アンケート調査の概要」を参照

自由記述より / 問 3-6 問 3-4 の困りごとについて、「このような支援があると助かる」と思うことがあれば、教えてください。

相談

秘密を守って話を聞いてくれて、悪くならず、人権意識があって、純粋な心を持っている人がいるといい (40代/男性)

一緒に考えてもらえる。意見をきく、おうえんしてもらおう (40代/女性)

困ったときに一緒に物事を整理して考えて必要な機関を紹介してほしい (40代/女性)

専門の病院と繋げて欲しいです。 (30代/男性)

障がい者サービスの拡充

“ 日祝に、スポット的に頼める(相談できる)ヘルパー(自己負担なしか低額で)(40代/女性) ”

“ 一緒に外出してくれる人がいたらいいと思う(10代/男性) ”

当事者活動

“ 利用者主体イベント・利用者が運営側になれるようなイベントで成功体験をつめればと思います(30代/男性) ”

“ 同じようなことで悩んだ/悩んでいる人の対処法(20代) ”

特性への配慮

“ コミュニケーションボード、筆談ボード(30代/女性) ”

“ 学校の中で少しでも発達の理解がほしい(10代/女性) ”

“ パニックになった時はただ見守ってほしい(20代/女性) ”

学習の機会

“ 将来設計を学べる場(20代/女性) ”

“ 支援金や、それに対する知識や仕組みなど(40代/男性) ”

その他

“ 自身が本当に求めるべき支援とは何かをわかっていないかもしれません(40代/女性) ”

報告書検討メンバー コメント

アンケートでご意見が多かった、相談したい、理解してほしい、間に入ってほしい等から、相談支援の充実が求められていると考えます。相談支援でも、対応できる機関やサービスに「つなぐ支援」だけではなく、困りごとに対し、その困りごとの理解を深め、適切な助言を提供すること、時間をかけて関わる姿勢を保ち「つながり続ける支援」が可能であること、必要な時に必要な支援ができるような支援者がいることが必要と考えます。

板橋区立障がい者福祉センター 次長 中村 博志

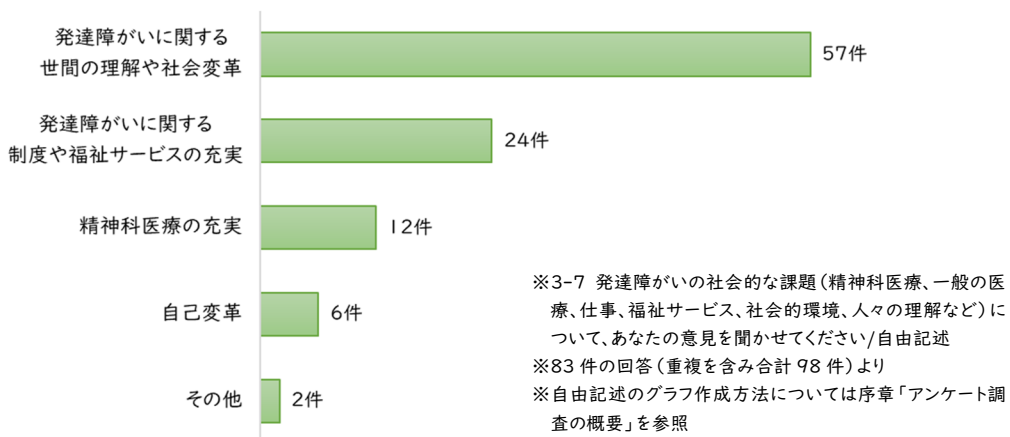
第4章

発達障がいの社会的な課題についての
当事者の意見

あいポートのミーティングでは、かねてより、発達障がいの理解や社会的な課題について、本人ならではの経験に基づく意見が多く出されていた。同じ悩みをもつ者同士が意見交換を重ねる中で、社会的な課題認識はある程度共通しており、支援者の検討課題とほぼ一致している。

あいポートではこれまで、課題や支援の方向性を、家族や関係者、専門家と検討してきたが、ようやく本人が意見表明する機会をつくることができた。なお、社会的課題についての意見の中に、自分の課題や自分を変えることへの言及が複数あったため、「自己変革」という項目で紹介する。

図4-1 社会的課題についての意見(自由記述)



自由記述より / 問3-7 発達障がいの社会的な課題(精神科医療、一般の医療、仕事、福祉サービス、社会的環境、人々の理解など)について、あなたの意見を聞かせてください。

発達障がいに関する世間の理解や社会変革

残酷な事実だがサポートが必要な人ほど助けたいと思える人柄、見た目をしていない上、「努力が足りない」と言われがち。ありのままの自分を受け入れてもらえることを求めると面倒に思われるが、健常の擬態化も限界(50代/女性)

発達障害への理解や認識がもう少しあると生きやすくなる(30代/男性)

障害者雇用の職種が偏っていて賃金も低い(30代/女性)

世の中に、少数派の私たち発達障害者の理解がすすみ、一般の方々(多数派)が偏見や先入観をもたないで温かく接してほしい(今まで温かく接してくれた人もいたが、冷たい態度をとられ悲しい思いをしたことがある)(10代/女性)

発達障害の受け入れを謳っていながら最初から拒絶する施設がある。私にとっては当たり前前のことが世間ではあたり前ではない。そのズレが苦しい。目立ちたくない。普通でいたいんだけど(50代/男性)

親が把握していないと手帳取得のときの成育歴がしんどい、発達障害の特徴が強いけど2次障害の診断のままの人や発達遅滞が重くても知的障害の手帳取得ができない人がいる(30代/女性)

合う合わないがあるから仕方が無いけど、どこが頼れる場所なのかが分かりづらくて困ってる。障害者は障害者らしく支援の元生きてなきゃいけないのかなって思う(20代/女性)

発達障がいに関する制度や福祉サービスの充実

治らない障害なのに手帳申請に更新があるのが不思議(30代/女性)

障害者雇用の給料や就労 A、就労 B の工賃は上がって欲しいです。就労移行もお金がない人や実家に帰れない人にも優しい制度だと良い(20代/女性)

精神科医療の充実

発達障害と気づかれないことで別の精神的な治療を受けていた。発達障害の診断が出て薬も減り、先生の方針も変わった(20代/男性)

発達障害を専門とする病院が少なく、なかなか予約が取れないこと(40代/女性)

自己変革

自立することは難しいけれど、仲間をつくって共に生きる(40代/女性)

他者がどうというより、自分の中での折り合いのつけ方が課題(20代/女性)

自己理解と適応能力に無理のないよう、個人が少しずつ努力することが大切(50代/女性)

その他

日本の社会情勢から社会人に求められる能力がより高くなっており、以前は社会にギリ適応していたグレーゾーンが脱落している、技術や社会の移り変わりが激しいので常に人生の攻略法を考える必要があるがそれに適応できない(30代/女性)

取りにくい障害年金の次が生活保護になってしまうのは、労働機会の損失や意欲の損失につながっていそう(30代/女性)

報告書検討メンバー コメント

こども時代の辛い経験について、多くの自由記述に圧倒されました。

発達障がいの特性ゆえにいじめを受けたこと、体調不良や疲労などの様々な困難を本人たちが振り返っています。「不慣れな環境への順応性が低い」「暗黙の了解やグループ行動に馴染めず苦勞した」など。これらのことは、私たち親が実感する我が子の困難と近く、彼らが自分の言葉で、具体的かつ確に表現していることに驚きました。

— 私たちのことは、私たちに聞いて —

本人たちの意見に耳を傾けることが大事です。このことを私たち親、学校の先生方、日常的に接する人たち皆が学ばなければならないと思いました。

板橋区発達障害児者親の会(IJの会)代表 鈴木 正子

発達障害の人と言ってもいろんなタイプの人が存在します。知的障害のレベルもいろいろです。だから支援の内容も様々となります。でも共通するニーズがあります。それは安心できる居場所であり、受け入れてくれる人の存在です。マイノリティーである発達障害の人にとってそういう場は必須なのです。「あいポート」がその役をになっていくことを期待しています。

NPO 法人東京都自閉症協会 副理事長 今井 忠

発達障害の理解の難しさや乏しさや偏見の訴えが見受けられ、期待する区分や形態の相違、連携が円滑でない等の意見がありました。私も概ね同意見です。啓発活動、身近な相談機関、あいポートのような専門的な相談・支援施設などが増えれば、当事者や家族は苦勞や不和が減り、ひいては社会全体の理解へ繋がるのではないのでしょうか。

日常の小さなこと、言語化が難しいこと、枠組みのような大きなこと。当事者の思いを社会に広げる為、今後もアンケート・聞き取りを続けて頂きたいです。

あいポート利用者 長谷川 司